

記憶の中のゴルフ場（米国編）

吉田 真人

風薫る五月はゴルフにも最適の季節だ。が、腰痛（すべり症）を発症して以来、実際のプレーはご無沙汰である。せめて過去にプレーした記憶の中のゴルフ場を思い出してみよう。

ペブルビーチ（カリフォルニア州）

オイルメジャーC社から合繊原料を購入していた。本社があったサンフランシスコから遠くない所のカール湾（太平洋）に臨む、風光明媚なチャンピオンコースである。本年6月にも全米女子オープンが行われる。

出だしの1番は直ぐ右が高級車の並ぶ駐車場で、打ち込まないようにと緊張する。海に突き出した6番では、案の定ボールは海の藻屑と化す。海越のショートカットが推奨されている8番は、珍しくナイスショットで何とか向こう岸まで届いた。

ラフは草丈が長く、且つ強い。幹事曰く「力任せに打つと手首を痛める。ボールが草の中に埋もれている場合は、救済の為、同じ場所の上部にプレイス出来るCURLールを適用する」。CUはその場にいた本部長の名前で、本人も満更でない表情だ。ゴマすり宮仕えの要諦である事は、洋の東西を問わないと実感した。

ツアー18（テキサス州）

典型的な接待コース。全米著名コースの名物ホールの再現が謳い文句だが、実際はオリジナルより少々易しくしているようだ。

コース途中に、日本のように茶屋（休憩所）はない。その代わりショートパンツのブロンド美女がジープで飲み物を売りに来る。ハローと微笑まれると買わないわけにはいかない。問題は数ホールすると又出現することだ。おかげでプレー終了時には手つかずの飲み物が堆積する事となる。

ヒルトンヘッド・アイランド（サウスカロライナ州）

大西洋沿いの著名なリゾート地である。絶妙な緑のグラデーションで、今までプレーした中で一番美しい。コース途中に幾つか池があるが、此処に打ち込んでも、ボールを拾いに行つてはいけない。緑の水草の中にこれも緑のアリゲーターが微睡んでいる。彼（彼女）に当たってしまったらどうなるのだろうか。

（2023年5月25日）